

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



シクリスムエコー No.203
2013年10・11月号



ジャパンカップ・クリテリウムのゴールスプリント



2013ジャパンカップサイクルードレース	2
ナショナルチーム新ジャージ発表	5
日本代表選手団	5・17
第68回国民体育大会 自転車競技会	6
UCIロード世界選手権大会	10
第6回東アジア競技大会 (2013/天津)	12
2013年第19回日韓対抗学生自転車競技大会	13
第2回レモンアイランドレース	14
来年の主要大会予定	16
競技大会結果	18
今後の大会予定	20
日本新記録	21
お知らせ	21
SAITAMA Criterium by Le Tour de France	22
東京国体PHOTO	24



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。  競輪の補助事業

RINGRING!
プロジェクト

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで 

RINGRING! 協賛



2周目の古賀志林道の登りを行く、メイン集団

2013 ジャパンカップ サイクルロードレース



田野町交差点を行く、メイン集団



田野町交差点先の登りを行く、先頭集団



雨の中、単独でフィニッシュするマイケル・ロジャース

昨年は10月の宇都宮とは思えない、汗ばむほどの気温と快晴に恵まれたジャパンカップサイクルードレースであったが、今年は'01年以来の本格的な雨に見舞われたレースとなってしまった。さすがに雨ともなると10月の宇都宮の気温は下がり、選手はそれぞれに雨と防寒対策を施しスタートを待つ。スタート時点での雨はそれほどでもないが、予報ではこれから本格的な雨になることが予想されていた。

雨中のレースということで最初は様子見の展開となり、山頂からの下りで内間康平(NIPPO)の逃げをきっかけに形成された8名の先頭集団、先頭を迫走する集団、更に下りを慎重に下った集団と3つのグループに分かれる。この展開は一旦シャッフルされ、田野(7km地点)のポイントでは阿部崇之(チーム右京)と内間がややリード。入部正太郎(シマノ)と堀孝明(宇都宮ブリッツェン)が続き、その後を第1集団が迫走する。

さらに阿部が単独で飛び出し迫走が10名。阿部は多気(10km地点)のポイントで差を10秒ほどに広げるが程無く吸収され、まずは11名の先頭集団が形成されて1周目を終える。1周目のラップタイムは22分55秒。序盤は2つのグループに分かれていた集団も、この時点では大きな一つのメイン集団となり、2分10秒ほどの差で1周目を終える。

2周目の古賀志林道で先頭集団から飛び出したのはマティアス・フリードマン(チャンピオンシステム)で、後続10名に15秒の差をつけて山頂を通過。その後も快調に逃げ2周目を終えてその差は1分18秒、メイン集団との差は2分53秒となる。このころから雨脚も強まり気温が下がってきた。フリードマンはこのままの勢いで3周目の1回目の山岳ポイントを獲得し、後続との差は一時2分近くまで広がる。

5周目、次の周に設定された山岳賞をフリードマンが連取することを阻止



スタート前、新城から花束を受ける福島

すべく、今年限りでの引退を表明している福島晋一(NIPPO)が鶴カントリーの登りで集団の活性化を図る。この試みは成功し、5周終了時にはフリードマンとの差が40秒まで縮まり、古賀志林道でいよいよその姿を射程距離に捉える。2回目の山岳賞はルイス・エンリケ・ダヴィラ(ジェリーベリー)が獲得した。

22回を数えるジャパンカップだが、本格的な雨中レースとなったのは今回で3回目である。初の雨中戦となったのは'00年の第9回であるが、このレースではあまりの低気温にメイン集団のペースが上がらず、メイン集団全員がゴール時にはあわやタイムアウトになろうかという大差がついた。しかしUCIプロチームが4チームから7チームに増え、計17チーム84名がスタートした今回は、同じ雨中戦でも様相が違っていた。UCIワールドランキング1位のスカイプロサイクリング勢らを中心にメイン集団はコントロールされ、6周目以降は先頭との差を2分以内として、簡単には逃がさない構えを見せる。

9周目の古賀志林道までには先頭集団は7名となっていたが、この中から3回目の山岳賞を狙って飛び出したのは有終の美を飾りたい福島!!だがその後を吉田隼人(シマノ)しっかりとマークし、山頂手前で福島をかわして山岳賞を獲得した。そして山岳賞狙いの役割を果たした先頭集団の選手は、徐々にメイン集団に吸収されていった。

9周目の鶴カントリーの上り、先頭を行くのは山岳賞を争った福島と吉田の2名だが、その後ろを昨年の覇者イヴァン・パッソ(キャンデール)を先頭に、スカイ、チームサクソらUCIプロチーム勢が前に出て、ペースを一気に上げていく。9周完了時の先頭2名とメイン集団との差は18秒まで縮まり、いよいよレースはここからゴール奪取への争いとなった。

10周目の古賀志林道の上りでは積極的なアタックはないが、全体的にペースアップが図られて集団の絞り込みが始まった。その中から抜け出したのは、優勝候補の一人とも目されるマイケル・ロジャース(チームサクソ)とジュシオ・エドモンドソン(スカイ)の2名。ジャパンカップ2度制覇のダミアノ・クネゴ(ランプレ)ら10名で形成される集団が迫走し、田野(7km)のポイントでその差は10秒。UCIプ

ロチーム勢がメンバーの中心だが、昨年このレースを沸かしたジュリアン・デビッド・アレドンド(NIPPO)、そして日本人では西谷泰治(愛三工業)が唯一この集団に残る。連覇を狙うパッソは第3グループに置いて行かれた。

スカイのエース、ダビド・ロペスが後方の集団にいてロジャースを抑えたいエドモンドソンだが、'03年から'05年にかけて世界選手権個人タイムトライアルを3連覇するなど独走力に優れるロジャースが、最後となる鶴カントリーの上りも積極的に前を引く。ロペスとクネゴもこの上りでペースを上げて追走集団は西谷を含む6名となり、先頭2名との差28秒で最終周回に入る。パッソのいる集団との差は約2分と開き、もはや優勝圏外からは転げ落ちていた。

最後の古賀志林道でロジャースが単独アタックを仕掛け、山頂ポイントで後続のアレドンド、ロペス、エドモンドソンら3名との差を30秒ほどに広げる。さらにその後方にクネゴとジャック・パウアー(ガーミン)が続き、下りで前方3名と合流して5名の追走集団が形成される。残り3km田野のポイントでその差は26秒。独走力に勝るロジャース優勝の可能性が高くなったが、それでもスカイのアシストであるエドモンドソンが、5名の先頭を引いてロペスをアシストする。

そのエドモンドソンも残り1kmの萩のポイントまでに力尽き、身を挺して前を追い上げる選手を失った4名には優勝の芽も無くなった。ロジャースがそのまま逃げ切って優勝、2位はゴール勝負となり、まずアレドンドが最初に仕掛けクネゴが続くも、最後にパウアーが2名をかわして2位。クネゴ3位、アレドンド4位となり、ゴールスプリントには参加しなかったロペスが5位でフィニッシュした。

12年振りとなった雨中のジャパンカップはゴールタイム4時間20分ちょうどと、近年のゴールタイムからは20分ほど遅く、厳しいレースであったことを物語っていた。だがこの日一番タフだったのは、寒風と雨が降りしきる中でレースを最後まで見守った、6万を超える大観衆であったかも知れない。ようやく雨脚が弱まった頃に行われた表彰式では、その大観衆には雨に加わって、勝利のシャンペンシャワーが降り注いでいた。(村田 隆宣)



宇都宮市街で行われたクリテリウム

女子ケイリンエキシビション



【競技結果】

**2013 ジャパンカップ サイクルロードレース
(2013/10/19-20 栃木・宇都宮)**

オープン男子 (80.8km)

- 1 黒枝 咲哉 大分 2:10:12
- 2 米内 蒼馬 東京 2:10:12
- 3 山本 隼 山梨 2:10:12
- 4 金子 大介 東京 2:10:12
- 5 水野 恭兵 山梨 2:10:12
- 6 酒向 俊平 千葉 2:10:12

オープン女子 (42.3km)

- 1 金子 広美 三重 1:20:53
- 2 西 加南子 千葉 1:20:55
- 3 合田祐美子 岡山 1:21:03

- 4 米田 和美 北海道 1:22:06
- 5 智野 真央 東京 1:22:55
- 6 佐藤 咲子 神奈川 1:24:29

クリテリウム (31.0 km)

- 1 スティール ウォンホフ ガーミンシャープ 42:48
- 2 ヘルムホルツ アイゼル スカイロサイクリング 42:48
- 3 マッテオ トレンティン オメガファーマ 42:48
- 4 ブラッド チャールズ ハブ ジェリーベリー 42:48
- 5 別府 史之 スパシャルチーム 42:48
- 6 マット ブラマイアー チャンピオンシステム 42:48

2013 ジャパンカップ (151.3 km)

- 1 マイケル ロジャース チームサクソテンコフ 4:25:00
- 2 ジャック バウアー ガーミンシャープ 4:25:44

- 3 ダミアノ クネコ ランプレリダ 4:25:44
- 4 エリアン ダヴィ NIPPO 4:25:44
- 5 ダビッド ロヘス スカイ 4:25:50
- 6 マイレ モーリ ランプレリダ 4:25:58

山岳賞

- 3lap マティアス フリードマン チャンピオンシステム
- 6lap ルイス エリカ ダウイラ ジェリーベリー
- 9lap 吉田 隼人 シマルレーシング

アジア最優秀選手賞

- 1 西谷 泰治 愛三工業

U23 最優秀選手賞

- 1 ジョセフ ドンブ ロウスキー スカイロサイクリング

**2013年ジャパンカップ
サイクルロードレース 日本代表選手団**

大会名 2013年ジャパンカップ
サイクルロードレース

開催場所 栃木県・宇都宮市森林公園

大会期間 2013年10月19日～20日

派遣期間 2013年10月18日～20日

代表選手団

監督 浅田 顕 (JCF ロード強化コーチ)

選手 黒枝 士揮 (大分・鹿屋体育大学)

寺崎 武郎 (福井・EQA U23)

内野 直也 (埼玉・EQA U23)

秋丸 湧哉 (大阪・EQA U23)

吉岡 直哉 (京都・京都産業大学)



JAPAN NATIONAL TEAM

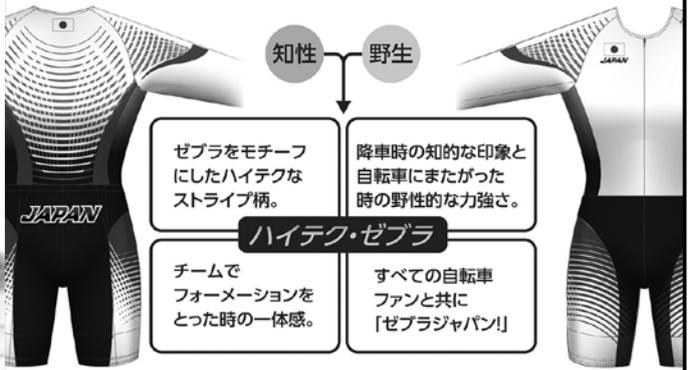
ナショナルチーム 新ジャージ発表

サイクルモード 11月4日「サイクルモード 2013」東京会場に於いて、ナショナルチームのジャージの新デザインを発表が行われた。

この日は、福島晋一、伊丹健治、小林優香、石井貴子の4人の選手が白と赤と黒を基調としたゼブラ柄の新デザインのジャージでステージに立った。リオに向けて2014年4月頃から新デザインに変更される予定となっている。



乗車するとストライプが強調され
チームでフォーメーションをとると
力強い一体感を生む。



2013 日韓対抗学生自転車競技大会 日本代表選手団

大会名 2013 日韓対抗学生自転車競技大会
開催場所 全羅南道 羅州 (naju 333m)
大会日程 2013年11月2日～3日
派遣日程 2013年11月1日～4日

代表選手団

団長 井関 康正 (日本学生自転車競技連盟副会長)
副団長 川邊 哲 (全国高体連自転車競技専門部部長)

コーチ

大学 添田 広福 (日本学生自転車競技連盟理事)
高校 折本 裕樹 (全国高体連自転車競技専門部強化育成部会長)
女子 大野 直志 (全国高体連自転車競技専門部強化育成部会員)
総務 田中 良泰 (全国高体連自転車競技専門部事務局長)
麦倉 陽介 (日本学生自転車競技連盟学生委員長)
坂井田 米治 (全国高体連自転車競技専門部理事長)
川口 敬二 (岡山工業高校自転車部顧問)

選手

男子大学生 宮本 隼輔 (中央大学)・末木 浩二 (日本大学)
伊藤 和輝 (早稲田大学)・倉林 巧和 (日本体育大学)
佐伯 亮輔 (中央大学)
男子高校生 野上 竜太 (岡山工業)・滝本 泰行 (岡山工業)
田邊 裕征 (岡山工業)・森口 寛己 (和歌山北)
塩田 航平 (栄北)
女子 丸田 京 (法政大学)・中村 妃智 (日本体育大学)
小島 蓉子 (日本体育大学)・鈴木 奈央 (星陵高)
元砂七夕美 (榛生昇陽高)

2013 ツール・ド・イジェン 日本代表選手団

大会名 2013 ツール・ド・イジェン
開催場所 インドネシア・バニユワンギ
大会期間 2013年11月2日～5日
派遣期間 2013年10月31日～11月7日

代表選手団

監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)
メカニック 鬼原 積 (JCF 選手強化支援スタッフ)
マッサー 村川満紀子 (JCF 強化支援スタッフ)
選手 清水 都貴 (プリヂストンアンカー)
六峰 亘 (プリヂストンアンカー)
吉田 隼人 (シマノレーシング)
徳田 鍛造 (鹿屋体育大学)
中根 英登 (TEAM NIPPO)

第 68 回国民体育大会 自転車競技会

地元東京が総合優勝!

「東日本大震災復興支援 とどけよう スポーツの力を東北へ!」と銘打たれたスポーツ祭東京 2013、第 68 回国民体育大会自転車競技会が、9 月 29 日(日)～10 月 3 日(木)の 5 日間の日程で開催された。

東京での国体開催は 54 年ぶり、また日本時間の 9 月 8 日に 57 年ぶりとなるオリンピック東京開催が決定したことも相まって、自転車競技会場となる八王子市、あきる野市、檜原村、奥多摩町、立川市を含む競技開催各市町村は、各地でスポーツの熱気に包まれた。

【ロードレース】

[少年男子個人ロードレース]



国体初日、9 月 29 日は少年と成年の個人ロードレースが開催された。

少年男子ロードレースは昨年の都道府県対抗で、女子ロードレースのコースとして使用された 68.2 km で行われた。八王子市市役所前をスタートし、あきる野市、檜原村を経て奥多摩町・奥多摩湖「水と緑のふれあい館」(小河内ダム)前をゴールする特設コース。スタート地点の標高 125m から最高地点・数馬駐車場の標高 1,140m まで標高差 1,015m、獲得標高は上り 1.367m、ゴールまでの所要予想時間はおおよそ 2 時間のタフなコース設定である。

レースは登りに入って仲村顕登(奈



山本(右)と仲村

奥多摩周遊道路を行く成年の先頭集団



良・奈良北高)が単独でエスケープ。頂上付近までこの逃げは続くが、その後ろを北野龍人(富山・水橋高)と山本大喜(奈良・榛生昇陽高)の 2 名が追走。やや遅れて田窪賢次(大阪・茨木工科高)、更に遅れて佐々木文平(秋田・大曲農高)、小山貴大(群馬・前橋育英高)が続く。

この展開ならば先頭の仲村と同県の山本は無理して追いかける必要はなく集団をコントロールするが、程無くして仲村はキャッチアップされて先頭は佐々木まで含んだ 5 名になる。山本は仲村とともにエスケープを試みるが、ここまで単独で逃げてきた仲村にその余力はなく、山本単独の逃げとなる。

山本はそのまま逃げ切り 43 秒の差をつけて優勝。ゴールスプリントで北野が 2 位、田窪が 3 位、健闘の仲村が 4 位となった。

[成年男子個人ロードレース]

成年男子ロードレースのコースは、少年のコースに八王自市内の周回コース 8.9 km と、あきる野市内・陸橋通りの往復周回コース 4.8 km × 5 周を加えた 101.1 km のコース。獲得標高は 1,710 m。

成年男子は序盤から激しいアタックが繰り返されたが、最終的に登りで 8 名の先頭集団が形成され、そこから窪木一茂(和歌山・県教育庁)が単独での逃げに成功し、少年と同じく 2 位に 43 秒の差をつけて優勝した。昨年の都道府県抵抗においてこのコースで

優勝した地元東京の西村大輝(東京・シマノ)が、7 名のゴールスプリントを制し 2 位、3 位は石橋学(青森・鹿屋体大)が入った。



窪木一茂

[トラックレース]

トラックレースは第 2 日から第 5 日までの 4 日間、立川市の立川競輪場で開催された。

[男子チームスプリント]

トラックレース最初の決勝種目は男子チームスプリント。予選をトップタイム(1 分 18 秒 345 で通過した東京都(高橋・橋本・山本)が、予選 2 位の石川県(吉川希・栗田・吉川勇)と対戦し 0.075 秒差で優勝。総合優勝へ向け、幸先の良いトラックレース 1 勝を飾った。



[男子チームパーシュート]

予選で大会新記録となる4分23秒504を記録した岐阜県(相馬・矢野・橋本・渡邊)が、和歌山県(窪木・和田・岡本・森口)に3秒余の差をつけて優勝した。



[少年男子1km タイムトライアル]

あいにくの雨天の中行われた少年1km タイムトライアルは、滝本泰行(岡山・岡山工高)が1分7秒547のタイムで優勝した。



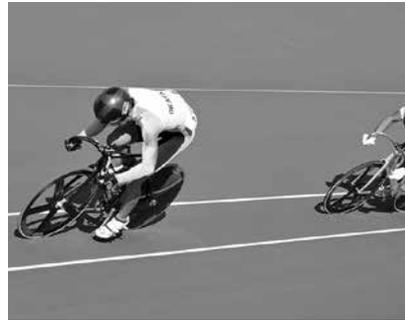
[成年男子1km タイムトライアル]

優勝は相馬義宗(岐阜・朝日大)でタイムは1分6秒482。2位の新山響平(青森・青森車連)、3位の山内厚二(埼玉・日体大)までが6秒台の好タイム。



[少年男子スプリント]

ジュニア世界戦代表の野上竜太(岡山・岡山工高)が、決勝で後藤悠(岩手・紫波総合高)にストレート勝ちして優勝した。



[成年男子スプリント]

1か月前開催のインカレではこの種目でのタイトルを逃がした橋本凌甫(東京・日本大)が、橋本瑠偉(佐賀・明治大)にストレート勝ちして優勝した。



[少年男子ポイントレース(24km)]

中盤から山本大喜(奈良・榛生昇陽高)と富尾大地(鹿児島・南大隅高)の逃げが決まり、山本が富尾に4ポイントの差をつけて優勝した。山本はロードレースに続きこの大会2勝目を挙げた。



[成年男子ポイントレース(40km)]

中盤6人の逃げが決まり、集団をラップして20ポイントを獲得。その中でも入部正太郎(奈良・シマノ)は終始果敢な走りを見せ、終盤も4連続で5点を獲得して、2位の緑川竣一に13ポイントの差をつけて優勝した。奈良県は少年と併せ、この種目のダブル優勝を果たした



[少年男子4km 速度競走]

眞砂英作(香川・高松工芸高)と森口寛巳(和歌山・和歌山北高)の先頭の取り合いになったが、眞砂がゴールを取って優勝。2位は終盤に先頭責任を果たした原井博斗(福岡・裕誠高)が入り、森口は3位に終わった。



[成年男子4km 速度競走]

終盤に逃げの決まった高士拓也(三重・中央大)がそのまま逃げ切って優勝。2位には山本元喜(奈良・鹿屋体大)が入った。



[少年男子ケイリン]

先頭誘導員の後ろを取った小山兼司(福岡・裕誠高)が、誘導員退避後もそのまま先頭を譲らず逃げ切って優勝した。



〔成年男子ケイリン〕

ゴール前鋭く追い込んだ池野健太(兵庫・中央大)が優勝、地元東京の高橋築(東京・日本大)が2位となった。



〔女子種目紹介〕

国体の自転車競技会において現在女子の種目はないが、女子種目紹介・エキシビジョンとして3種目が行われた。

チームスプリントでは小林優香・石井貴子組(日本競輪学校A)が56秒333の日本新記録を樹立。練習でタイムが出ていたことから競技会前に公認申請をしており、この記録は日本新



日本新を樹立した小林(左)と石井

として公認された。

500mタイムトライアルは小林優香が37秒001で1位、ケイリンは中村妃智(日体大)が1位となった。



〔総合順位〕

総合順位は成年男子スプリント、チームスプリントで優勝、成年男子個人ロードレース、成年男子ケイリンで2位を獲得した地元東京が、2位の和歌山と奈良県に4ポイントの差をつけて優勝した。開催地の総合獲得は、昨年の開催地である岐阜県に続き2年連続であり、東京にとっては開催までの苦勞が報われる結果となった。

〔総評〕

ロードレースは昨年の都道府県対抗で使用された77.1kmのコースに、4.8km×5周の周回コースを加えた101.1kmコースでの実施となった。これは沿道の住民宅を、一軒一軒訪問して実施許可を頂くという関係各位の地道な努力の賜物であり、まずはその努力に敬意を表したうえで、沿道住民の方々、所轄警察や消防をはじめとする関係団体各位、そして競技実施にご協力いただいた自衛隊朝霞駐屯地の各位に厚くお礼を申し上げたい。

トラックレースは関係各位に加えて学校行事の一環として観戦し、厚い応援を贈ってくれた地元の小学生や中学生にも感謝を申し上げたい。そして願わくはこの中から少しでも自転車競技に興味を持ち、このスタンドから将来の選手が誕生することを期待したい。

直前にオリンピックの誘致が決まり、競技会場の中心地こそ異なるものの、この東京国体が東京オリンピック開催の試金石・リハーサル大会となって、少々気が早いけど2020年オリンピックの成功を祈念したい。(村田 隆宣)



〔競技結果〕

第68回国民体育大会自転車競技会
 ロード:2013/9/29 東京・八王子/あきる野/檜原/奥多摩
 トラック:2013/9/30-10/3 立川競輪場)

女子 イキビジョン 500m タイムトライアル

- 1 小林 優香 静岡 日本競輪学校 37:001
- 2 石井 貴子 静岡 日本競輪学校 37:577
- 3 高木 真備 静岡 日本競輪学校 37:921

女子 イキビジョン ケイリン

- 1 中村 妃智 千葉 日本体育大学
- 2 丸田 京 東京 法政大学
- 3 森 沙耶香 大分 朝日大学

女子 イキビジョン チームスプリント

- 1 日本競輪学校A 小林・石井 56:333
- 2 日本競輪学校B 高木・長澤 1:00:280

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworlds

JAL JAPAN AIRLINES

成年男子スプリント

- 1 橋本 凌甫 東京 日本大学
- 2 橋本 瑠偉 佐賀 明治大学
- 3 坂井 洋 栃木 作新学院高校



少年男子スプリント

- 1 野上 竜太 岡山 岡山工業高校
- 2 後藤 悠 岩手 紫波総合高校
- 3 小早川 令 福岡 祐誠高校



成年男子1kmタイムトライアル

- 1 相馬 義宗 岐阜 朝日大学 1:06.482
- 2 新山 響平 青森 青森県車連1:06.564
- 3 山内 厚二 埼玉 日本体育大1:06.872



少年男子1kmタイムトライアル

- 1 滝本 泰行 岡山 岡山工高 1:07.547
- 2 堀 航輝 香川 石田高校 1:07.623
- 3 西尾 滉平 福島 平工業高 1:08.735



成年男子ケイリン

- 1 池野 健太 兵庫 中央大学
- 2 高橋 築 東京 日本大学
- 3 丸田 直 神奈川 三菱電機



少年男子ケイリン

- 1 小山 兼司 福岡 祐誠高校
- 2 藤森 駿介 熊本 九州学院高校
- 3 千田 拓磨 石川 内灘高校



成年男子4km速度競走

- 1 高士 拓也 三重 中央大学
- 2 山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学
- 3 西沢 俊義 京都 明治大学



少年男子4km速度競走

- 1 眞砂 英作 香川 高松工芸高校
- 2 原井 博斗 福岡 祐誠高校
- 3 森口 寛己 和歌山 和歌山北高校



成年男子ポイントレース(30km)

- 1 入部正太郎 奈良 シアレーシング 55p
- 2 緑川 竣一 福島 中央大学 42p
- 3 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大学 40p



少年男子ポイントレース(24km)

- 1 山本 大喜 奈良 榛生昇陽高校 26p
- 2 雷尾 大地 鹿児島 南大隅高校 22p
- 3 吉田 慶 広島 山陽高校 14p



男子チームスプリント

- 1 東京 高橋・橋本・山本 1:19.684
- 2 石川 吉川希・栗田・吉川勇 1:19.759
- 3 岡山 奥村・滝本・野上 1:19.339



4kmチームパシュート

- 1 岐阜 相馬・矢野・橋本・渡邊 4:24.144
- 2 和歌山 窪木・和田・岡本・森口 4:27.536
- 3 福島 吉田・我妻・緑川・久保田 4:31.690



成年男子個人ロードレース(101.1km)

- 1 窪木 一茂 和歌山 県教育庁 2:35:22
- 2 西村 大輝 東京 シアレーシング 2:36:05
- 3 石橋 学 青森 鹿屋体育大 2:36:05
- 4 平塚 吉光 静岡 愛三工業 2:36:05
- 5 飯野 智行 群馬 ブリッツェン 2:36:05
- 6 池部 壮太 大分 マトリックス 2:36:05



少年男子個人ロードレース(68.2km)

- 1 山本 大喜 奈良 榛生昇陽高 1:56:54
- 2 北野 龍人 富山 水橋高校 1:57:37
- 3 田窪 賢次 大阪 茨木工科高 1:57:37
- 4 仲村 顕登 奈良 奈良北高校 1:57:38
- 5 佐々木文平 秋田 大曲農業高 1:57:53
- 6 樋口 峻明 神奈川 横浜高校 1:58:23



総合成績

- 1 東京都 60p
- 2 奈良県 56p
- 2 和歌山県 56p



UCI ロード世界選手権大会

イタリアの難コースの前に、上位入賞はかなわず



<エリート女子ロードレース>

9月28日(土) 晴れ(140.05km)

43ヶ国141名が14時15分定刻にスタート。フィレンツェの周回コースに入るまでの57.2kmは大きな動きも無く、集団のままレースが展開された。

1周目に入ると集団のペースが上がり、アメリカチームの選手が集団をコントロール、141名の集団が1列棒状となり集団が大きく崩れる。トップ集団が50名前後となり、日本チームの與那嶺恵理、上野みなみは後方にいたためトップ集団に入らず、後方の集団に取り残されてしまう。

2周目に入りトップ集団から1分20秒遅れで與那嶺が通過、2分遅れで上野の集団40名前後で通過。トップ集団はラスト5km地点、最大斜度16%の激坂でアタックがあり33名の集団となる。

周回を重ねるごとにトップ集団の人数が絞られ、4周目の激坂で優勝候補のVOS Marianne(オランダ)を筆頭に、VILLUMSEN Linda(オランダ)、VAN DER BREGGEN Anna(イタリア)、GUDERZO Tatiana(イタリア)、LONGO BORGHINI Elisa(イタリア)、STEVENS Evelyn(アメリカ)、JOHANSSON Emma(スウェーデン)、8名の優勝争いとなる。

3名の選手がトップ集団に残ったイタリア勢が圧倒的に有利なレース展開となったが、ラスト5周の激坂で強烈なアタックを見せたVOS Marianne(オランダ)が他の選手の追走を振り切って独走。力強い走りでのそのままゴール、2年連続世界選手権を制覇した。初参加となった與那嶺はトップから3分56秒09遅れで40位、上野はDNFに終わった。(高橋松吉)

<ジュニア女子ロードレース>

ジュニア女子ロードレースは、フィレンツェ市街周辺の16.57kmの周回コースを5周する82.85kmに、81名が参加して争われた。コース前半の4kmのフィエゾレの登りと、600mと距離は短い最大勾配16%、平均勾配10%の非常に厳しいサルピアーティの登りが選手をふるいにかける。フィエゾレの登り前半は勾配も緩く集団が有利であるが、ラスト1.5kmほどは7%以上の勾配となる。そしてこの登りの後は狭い長い下りとなり、下りの技術の差により中切れが多く起こることが予想された。この下りの後にサルピアーティの登りに入り、そこから5kmの平坦を経てゴールする。

日本からは坂口聖香(パナソニックレディーズ)が、TTから中3日で参加した。レースは最初の登りでは大きな動きはなく、その後の下り坂でロシア、ウクライナ、ドイツの3選手が抜け出す。さらにその3名を追ってデンマーク、コロンビアの2名

が抜け出していく。このアタックに対して集団は動きが止まり、特にサルピアーティの頂上からフィエゾレの登り口までの、7km弱の平坦区間で一気に差が広がる。坂口を含むメイン集団はフィエゾレの登り、サルピアーティの登りでペースが上がるものの、その後の平坦区間で一気にペースが落ちるのを繰り返して、5名になった先頭グループとのタイムが縮まらない。登り坂で集団が小さくなる中で、坂口は20番手以内の良い位置でこなす。サルピアーティの登りでは追撃の動きもあり、それに対して力に応じて10番手以内でクリアし、追撃グループが形成された場合にしっかり入れる位置でこなす。

先頭5名からはドイツの選手が遅れ4名になるが勢いは変わらず、集団とのタイム差を2分近く保ったまま進む。4周目のフィエゾレの登りも25名に減った中で坂口は集団で前から10番手以内をキープする。ただこの周回の山頂付近でイタリアのアタックがかかり、被される形で一瞬反応が遅れ、集団後方に回った状態で下りに入る。この下りはテクニクの差が出るところであり、中切れがおこり集団も縦に長く伸びる。下りのテクニクのある坂口ではあるが、この下りとその後の下り基調の平坦で前に上がるために脚を使うことになる。そして勝負となる4周目のサルピアーティの登りに入ると、メイン集団ではオランダ、イタリア、ポーランドの選手が入り口から一気に攻撃をしかけ、それに有力選手も反応し集団は大きくばらける。ここで坂口は22名に絞られたメイン集団に、あとわずかのところで入ることが出来ず遅れてしまう。その後の平坦でフランス、スペイン、ドイツの選手と4名で集団復帰を目指す。勝負のかかった集団はペースを落とすことなく進んだため追いつくことはなかった。ラスト周回では遅れていた選手にも抜かれ、トップとは3分48秒差の36位でゴール。前半から逃げ続け、登りでは先頭グループの選手の中で一番厳しい状況のようにみえたデンマークのAmalie Dideriksenが、3名のスプリントを制し優勝した。

もし坂口が今の力に見合った順位だけを考えると賢く走り、1周目から3周目のサルピアーティの登りで力を使わず集団前方から下がりながら登れば、今回20位以内に入る力はあったであろう。そのような走りをせず、メイングループに残った有力選手らとの登りでの力勝負に前半から進んで対応して大きく力を使い、4周目のサルピアーティの激坂の最後で遅れ、ラスト周回では後ろから来た選手にも抜かれながらゴールすることとなった。

今回の厳しいコースで世界のトップジュニアを相手に力勝負を挑み、10位以内に入

るにはまだ力が足りないことも十分認識することが出来たと思う。順位でみれば36位と良い結果とは言えないが、今回勝負する走りをしなければ、感じる事が出来なかった世界のレベルを、はっきりと感じることが出来たことは大きな経験になった。ジュニア2年目となる来年の世界選手権が坂口のゴールではないが、選手としての重要な通過点の一つになるであろう。

<ジュニア男子ロード>

ジュニア男子はモンティカッティーニテルメをスタートして、フィレンツェの周回まで60kmほど走ったのちに、女子ジュニアと同じくフィレンツェの周回コースを5周する140.05kmで争われた。周回に入るまでは、一つ丘があるのみでほぼフラットなコース。選手の間、経験のレベルの差も激しいジュニアカテゴリーでは、198名出走ということもあり集団内では、安全な場所というのは集団の一番前以外にはなく、常に落車の危険が付きまとう。

この世界選手権の優勝候補筆頭、現シクロクロスのジュニア世界チャンピオンであり、ロードのネイションズカップでも活躍しているMathieu van der Poel。4日前のTTでは50位と予想外に悪かったが、ロードの優勝候補としての評価が下がることはない。強力なライバルとして5月のチェコ、ドイツのネイションズカップのステージレースで他を圧倒して総合優勝し、ジュニアのバリルレーベも獲っているデンマークのMads Pedersen。ネイションズカップでも活躍し、直近のイタリアで行なわれたステージレースで総合優勝しているイギリスのGeoghegan Hart Taoが挙げられた。

日本からは今年のヨーロッパでのネイションズカップ、強化合宿等での走りから選ばれた岡篤志(キャンデールチャンピオンシステム)、黒枝咲哉(日出暁谷高校)、横山航太(篠ノ井高校)の3名をエントリーした。今回の世界選手権に向けて、ジュニア男子は八戸で直前合宿を行なった。この合宿では3選手とも非常に良い状態であり、その中でも岡が特に素晴らしい仕上がりをみせ、今回はエースとして代車も彼のポジションに合わせて準備した。横山もドイツのネイションズカップの最難関ステージで、区間7位に入った頃より登りの強さが増し期待が出来る。黒枝も春先まではスプリンターとしてのイメージが強かったが、日々の練習の中で登坂力を向上させており、良い状態で世界選手権に臨むことが出来る。

3名とも日本の若い選手の多くが苦手とするヨーロッパの密度の高い集団走行を苦にせず、登坂力もスピードも持ち合わせている。クロアチア、ドイツのネイションズカップでもステージ6位以内に手の届く位置で走っており、厳しい今回のコースでも

何の不安もなく、ミーティングではどの選手も10位以内を目標にする。10位以内というのは彼らにとってはただ漠然とした目標ではなく、世界のレベルというのをネーションズカップで経験しながらも、現実的な目標としてこの順位以内でゴールすることを目指した。

日本チームとしては周回に入るまでの平坦区間では大人数の逃げ以外は見送り、フィレンツェ市街に入る前の狭くなる区間までには必ず前に上がることを。周回に入ってからフィエゾーレの登りでは、その後の下りでの中切れもあるので前でこなすこと、サルビアアートの激坂では、3周目までは動きがあってもその後の平坦で追いつくので力を使わず、本当の勝負のかかる4周目、5周目に向けて力を蓄える事を伝える。集団ゴールになった場合に黒枝がそこに残っていた場合のみ、他の選手が黒枝のスプリントのサポートをすることとした。最終的に10名から20名、多くても30名ほどに絞られると予想された先頭グループに、少なくとも好調の岡が、そして横山と黒枝もその中に入る事が期待された。

レースはフィレンツェの周回に入る前に15名の逃げグループが出来る。かなりの大人数がタイム差をつける危険な逃げであったが、日本からはスタート位置が後方であったこともあり誰も入ることが出来なかった。イタリアが2名この逃げに入ったが、有力選手の名前は先頭グループにはない。周回に向かうまでのメイン集団内では、落車が頻発して黒枝が巻き込まれる。前輪が大破し大きく遅れたが、ニュートラルの車輪で走り何とか集団復帰する。先頭グループは集団に5分弱の差をつけてフィレンツェ周回に入る。フィレンツェ周回に入る前に市街地を抜けるのだが、道が狭くコーナーも多いため、集団は縦に長く伸びた状態で進む。5分のタイム差というのは、組織して動けるチームが多くないジュニア男子のレースでは想定外であったが、この展開により前半の周回から、メイン集団でも大きな動きがあると予想される。先頭集団はタイム差もあるので、2つの登りとも一定ペースで走る。一方メイングループはフィエゾーレの登りを、1周目から速いリズムで進む。この登り口で落車が発生し、横山が巻き込まれる。他の選手と自転車が終わってしまい、再走までに時間がかかってしまう。頂上までにはメイン集団後方に自力で復帰することが出来たが、その後の下りでの中切れにあい集団から遅れてしまう。横山はその後も走り続けたが、ラスト周回に入る前にリタイアとなる。

黒枝は前半の落車の影響でアウターギアしか使えない状況に陥っており、その後インナーローだけは使えるようになったが、高速の登り区間と激坂区間をこの状態で走るのには厳しい。レース後に分かったが落車の影響で、この時後輪もすでに割れていた。これらの影響でなかなか集団の前に上がることが出来ずに苦しむ。

1周目後半の平坦区間で岡が、追撃の11

名のグループに入る。有力国がほぼ入った追撃グループであったが、うまくまとまらずにフィエゾーレの登り頂上付近でメイン集団に飲み込まれる。3周目には先頭集団からチェコの選手が1名飛び出す、集団とのタイム差は大きく縮まり始めてきた。3周目のサルビアアートの登りで、黒枝はメイン集団から脱落する。岡はこの激坂登りでは予定通りに登り入り口を集団の前で入り、ジワジワ下って大きな力を使うことなく登ることで、レースの最終局面に向けて力を蓄えている。サルビアアートの登りでは、早くもMathieu van der Poelをはじめとした優勝候補数名が、前で動き始めたことで集団は長く引き伸ばされるが、集団にもまだ余力がある。集団は長くつながったまま下りに入り、その後の平坦でペースが落ちるということを繰り返す。優勝候補の1人、イギリスのGeoghegan Hart Taoが、サルビアアートの登りでチェーンが切れてストップ。ここでニュートラルカーの代車に乗ることになり、優勝争いから脱落する。

先頭グループとメイングループとのタイム差は縮まり続け、4周目に入るころには50秒までに迫ってきており、いよいよ本格的な勝負が始まる。集団がホームストレートを通して10分ほど経ち、集団がフィエゾーレの登り頂上付近に近づくころ、補給所から岡が代車に乗り換えて、大幅に遅れているとの連絡が入る。補給所通過時に他の選手が投げたサコッシュが、岡のホイールに絡まってしまい動けなくなっていた。しばらく自力で解決しようとしたようだが自転車は動かず、コース外の歩道を通って補給所の日本チームのピットに戻り代車に乗り換える。すでに取り戻せない時間が過ぎており、岡の世界選手権はここで終わってしまった。

メイン集団では、先頭グループを飲み込み振出しに戻ったところからフランスとコロンビアの選手が抜け出す。優勝候補筆頭のMathieu van der Poelは最終回のフィエゾーレの登りで抜け出し、サルビアアートの激坂区間の麓からライバル選手に力を見せつけるように一気に駆け登り、後続を突き放し独走して優勝。2位争いは集団スプリントでMads Pedersenが制した。

岡は力を貯めた状態で勝負のかかる4周目にトラブルに巻き込まれ、力をみせられずにレースを終えることとなり、レース後はしばし放心状態であった。横山も落車の影響を受けて、ネーションズカップでの力をみせることが出来ずにリタイアとなった。黒枝はギアの状態が悪いまま粘って、走り続けて完走した。

ジュニアの場合は世界選手権が初めての国際レースという選手も多く、他のカテゴリー以上に集団走行が危険な状態となる。優勝したMathieu van der Poelのようにチームに頼らず、自力でほぼ集団の先頭をキープしたり、デンマークチームのようにエースのMads Pedersenを守るために先頭を常にチームで固めて走る力など

が、今の日本の選手やチームにはなかったのも事実であった。今回上位に入った選手のほとんどが、日本選手より多くのネーションズカップやUCIレースを経験して世界選手権に臨んでいる。運動能力は日本でも練習により上げることが出来るが、その能力を生かすには集団走行技術や経験が欠かせない。現段階でこの技術を磨くには走る選手のレベルが高く、レースコースの環境が厳しいヨーロッパのレースをより多く走ることが重要になるであろう。

今年の世界選手権でジュニアロードは結果を残すことは出来なかったが、選手にとっては世界選手権を真剣に狙えるレースとして、準備して集中して臨んだという過程は重要な経験となる。今年のジュニア強化選手には、今回世界選手権に参加した3名のほかにも、ほぼ同じレベルに達している補欠の橋詰丈(昭和第一学園)、山本大喜(榛生昇陽高校)をはじめ、素晴らしい才能を持った選手が多にいる。今回の世界選手権に参加した男子メンバーは、ジュニアを卒業して来年からU23の舞台で戦うことになるが、各々の進路の中で常に世界の中での自分の位置というのを認識しながら、競技を続けていってもらいたい。

(柿木 孝之)

【競技結果】(日本選手参加種目のみ)

UCIロード世界選手権大会

(2013/9/21-29 ｲﾀﾘｱ・ﾌﾞｰﾈｽ)

女子ロードタイムトライアル(21.8km)

1	VAN DIJK Ellen	NED	27:48.18
2	VILLUMSEN Linda	NZL	28:12.28
3	SMALL Carmen	USA	28:16.92
27	與那嶺恵理	茨城 チームフォルツァ	30:15.56

女子ロードロードレース(140.05km)

1	VOS Marianne	NED	3:44:00
2	JOHANSSON Emma	SWE	3:44:15
3	RATTO Rossella	ITA	3:44:15
40	與那嶺恵理	茨城 チームフォルツァ	3:56:09
	上野みなみ	青森 鹿屋体育大学	DNF

男子ジュニアタイムトライアル(21.8km)

1	DECRAENE Igor	BEL	26:56.83
2	KRIGBAUM Mathias	DEN	27:05.49
3	MOSTOV Zeke	USA	27:17.80
29	岡 篤志	茨城 キャノンボール	28:31.10

男子ジュニアロードレース(140.05km)

1	VAN DER POEL Mathieu	NED	3:33:14
2	PEDERSEN Mads	DEN	3:33:17
3	NIKA Iltjan	ALB	3:33:17
106	黒枝 咲哉	大分 日出陽谷高	3:45:39
121	岡 篤志	茨城 キャノンボール	3:48:00
	横山 航太	長野 篠井高校	DNF

女子ジュニアタイムトライアル(16.19km)

1	ERAUD Severine	FRA	22:42.63
2	NICHOLLS Alexandria	AUS	22:45.32
3	MANLY Alexandra	AUS	22:50.80
36	坂口 聖香	兵庫 パナニックL.	24:06.51

女子ジュニアロードレース(82.85km)

1	DIDERIKSEN Amalie	DEN	2:32:23
2	IAKOVENKO Anastasiia	RUS	2:32:23
3	DEMYDOVA Olena	UKR	2:32:26
36	坂口 聖香	兵庫 パナニックL.	2:36:11

第6回東アジア競技大会(2013/天津)

トラックのスプリントと1kmTTで新田が2冠!

【ロードレース・レポート】

前日までは気温が23℃程あり半袖で過ごせたが、レース当日は朝から雨となり気温も16～17℃までしか上がらない。天津郊外のペロドローム前をスタートし、北西にクラクシながら4.2km進み、1周34.6kmの湖を男子は2周、女子は1周し、そして再びペロドロームに戻ってゴールするコース。高低差は数メートル程と全くないと言ってよい。但し、風速5～6m/sの風があり、周回で追風・横風・向風・横風と変化し展開に影響する。

<男子>

午前9時、男子8カ国28名がスタート。日本勢は黒枝士揮・山本元喜・和田力・高士卓也のU23メンバーが出走した。

湖の周回に入ったばかりの追い風区間で、Tuukhangai (MGL)とFeng(TPE)2名が先行。そこにプロトンから抜け出したJiang(CHN)・Wong(HKG)・和田・Altanzul (MGL)の4名が合流し、6名の先行集団となる。湖を1周する頃には6名と集団は1分30秒まで開くが、その後1分前後で落ち着く。この間に黒枝がパンクするが、高士のアシストにより集団復帰。しかし高士は足を使い遅れる。2周回目に入っても6名先行と集団1分差の構図が続く。このころ山本もパンクするが、無事復帰。先行6名とプロトンが50秒差となった頃、先行はAltanzul、Fengの2名と和田を含む

他4名に分かれる。残り10kmとなり、プロトンも活性化し4名を吸収するが、横風区間では先行2名との差が縮まらない。

2名から1分でプロトン。プロトンではCHNやTPE・MGLの選手中心にアタックが掛かり続け、7名と残りに分かれる。山本、黒枝、和田は追走7名には入れず10位以下の集団。残り2kmで序盤から逃げに入っていた和田はプロトンから遅れる。間もなくゴールとなり、山本13位、黒枝17位、和田19位、高士DNFに終わった。優勝はFeng。平均速度46km/hで逃げ続けての勝利。完走21名。

<女子>

午前11時に女子がスタート。6カ国19名の中に日本選手は針ヶ谷1名のみ。湖の周回に入る直前に針ヶ谷がアタックし飛び出す。間もなく吸収される。代わりに韓国の選手が飛び出す。これも吸収される。時々先頭付近が活性化してペースが上がるが、すぐに落ちたりするのを繰り返して、一つの集団のままレースがすすむ。周回部分を終える前の横風区間で針ヶ谷が遅れ気味になるが、何とか持ちこたえ復帰する。そのまま集団のままで進み、最後は全員スプリント。針ヶ谷は集団の位置からポジションを上げて9位に食い込んだ。優勝はHuang (TPE)で平均速度41km/h。(三宅秀一郎)

【競技結果】

第6回東アジア競技大会(2013/天津) (2013/10/13-15 中国・天津)

男子個人ロードレース(77.6km)

1	FENG Chun Kai	TPE	1:43:06
2	ALTANZUL Altansukh	MGL	1:43:28
3	TUULKHANGAI Tuguldur	MGL	1:43:46
13	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大		1:44:24
17	黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大		1:44:28
19	和田 力 和歌山 日本大学		1:45:01
	高士 拓也 三重 中央大学		DNF

男子スプリント

1	新田 祐大	JPCA JPCU 福島
2	中川誠一郎	JPCA JPCU 熊本
3	XU Chao	CHN

男子1kmタイムトライアル

1	新田 祐大	JPCA JPCU 福島	1:04.560
2	ZHANG Miao	CHN	1:04.633
3	HSIAO Shih Hsin	TPE	1:06.287

男子4km個人ロードレース

1	KIM Hongki	KOR	4:36.657
2	橋本 英也	岐阜 鹿屋体育大	4:39.547
3	CHEUNG King Lok	HKG	4:36.118
6	窪木 一茂	和歌山 和歌山県庁	4:42.951

女子スプリント

1	LEE Wai Sze	HKG	
2	LIN Junhong	CHN	
3	HAN Jun	CHN	
4	前田佳代乃	京都	—
5	石井 寛子	JPCA JPCU 東京	

女子500mタイムトライアル

1	ZHONG Tianshi	CHN	34.224
2	LEE Wai Sze	HKG	34.540
3	前田佳代乃	京都	36.637

女子個人ロードレース(43.0km)

1	HUANG Ting Ying	TPE	1:13:08
2	ZHANG Nan	CHN	1:13:08
3	HSIAO Mei Yu	TPE	1:13:08
9	針谷千紗子	栃木 Blitzschalage	1:13:08

第6回東アジア競技大会自転車競技 日本代表選手団

大会名 第6回東アジア競技大会(2013/天津)

開催場所 中華人民共和国・天津

大会期間 2013年10月13日～15日

派遣期間 2013年10月10日～16日

代表選手団

監督 坂本 勉(ナショナルコーチ)

コーチ 飯島 誠(選手強化コーチ)・三宅秀一郎(ロード競技部会)

メカニック 森 昭雄(選手強化支援スタッフ)

マッサージ 柳 浩史(選手強化支援スタッフ)

選手

【トラック】中川誠一郎(JPCA・JPCU 熊本)・新田 祐大(JPCA・JPCU 福島)・窪木 一茂(和歌山・和歌山県庁)
橋本 英也(岐阜・鹿屋体育大学)・石井 寛子(JPCA・JPCU 東京)・前田佳代乃(京都)

【ロード】山本 元喜(奈良・鹿屋体育大学)・黒枝 士揮(大分・鹿屋体育大学)

和田 力(和歌山・日本大学)・高士 拓也(三重・中央大学)・針谷千紗子(栃木・BLITZSCHALAGE)

2013 年第 19 回日韓対抗学生自転車競技大会

団体総合で韓国に負ける



今年で 19 回目となる 2013 年日韓対抗学生自転車競技大会が 11 月 2 日と 3 日、大韓民国全羅南道羅州市・ナジュ自転車競技場で開催された。

11 月 1 日(金)、成田出発組と関空出発組に分かれて韓国に向かい 13 時頃に仁川国際空港で日本選手団は合流した。その後、バスで 5 時間ほどかけて羅州市まで移動し、この日は明日の試合に備えて休んだ。

11 月 2 日(土)は 9 時から公式練習、10 時から競技場内で監督会議、昼食を挟んで 13 時 30 分から開会式がバンク内で行われ、14 時からいよいよ今年の競技が開始された。初日の決勝種目では、個人追抜競走の男子大学部で倉林(日体大)、男子高等部で森口(和歌北)、女子の部で田中(日体大)が優勝、1km タイム・トライアルでは男子大学部で末木(日大)が優勝した。初日の競技終了後、18 時 30 分より羅州市内の焼肉屋で歓迎レセプションが行われ、両国の友好を深める機会となった。

11 月 3 日(日)は 8 時から公式練習、競技は 9 時 30 分から行われた。最初のスプリント順位決定戦では野上(岡山工)が男子高等部で第 2 位となったがその他の種別は韓国の圧勝だった。その後、団体種目が行われた。団体種目は、各カテゴリーで実施種目が決まっており、高校生の部はチームスプリント、大学生の部は 4km チームパーシュート、女子の部はチームスプリントが行われる。結果は、男子団体種目全て韓国チームが勝利し、女子団体種目も韓国チームが先にフィニッシュしたが交代違反があり日本チームの優勝となった。しかし、今回

はチーム力の差を見せつけられた感がある。この後のケイリン決勝では、今回の最優秀選手に選ばれた韓国の高校生がパワフルな走りを見せて優勝した。最後は参加選手全員が出場する競技で、男子はポイントレース、

女子はスクラッチだ。女子の部は、小島(日体大)が最終回に逃げを打ったが後続に追い込まれ最終コーナーで落車してしまった。救急車で病院に運ばれましたが骨折などは無く一安心であった。優勝は韓国の選手だった。男子の部は、終始積極的な走りを見せた倉林(日体大)が優勝、伊藤(早稲田大)が 2 位となり、何とか最後は日本チームのワンツーで終わることができた。

以上で全ての競技が終了し表彰式と閉会式が行われ、日本チームの最優秀選手には倉林(日体大)が選ばれ、団体総合では韓国チームが 86 点对 67 点で日本チームに勝利し優勝カップが韓国チームの選手団長に授与された。最後に全員で記念撮影があり、日韓の親善交流を目的とした今年の大会も大いなる成果のうちに終了した。今回も、特に短距離種目で韓国との力の差を強く感じた。今後、この差を何とか埋められるように強化する必要があると思う。

11 月 4 日(月)、6 時頃に宿舍を出発し、また約 5 時間かけて仁川国際空港に向かった。日本への帰国も成田組と関西組に分かれるため、空港内のロビーで日本選手団の解散式を行い、それぞれ帰国便に乗り無事に帰国した。来年のこの大会は日本(関西地方)で開催の予定だ。(坂井田 米治)

【競技結果】

第 19 回日韓対抗学生自転車競技大会
(2013/11/2 -3 大韓民国・全羅南道)

大学生男子スプリント

- 1 Son Je Yong KOR
- 2 Lee Young Kyu KOR
- 3 宮本 隼輔 中央大学

大学生男子 1km タイムトライアル

- 1 末木 浩二 日本大学 1:08.992
- 2 Kim Yong Kyu KOR 1:10.179
- 3 Lee Young Kyu KOR 1:12.425

大学生男子 4km 個人パシュート

- 1 倉林 巧和 日本体大 4:56.902
- 2 Park Jong Hyo KOR 4:57.683
- 3 伊藤 和輝 早稲田大 5:01.995

大学生 4km チームパシュート

- 1 大韓民国 4:38.984
- 2 日本 末木・倉林・佐伯・伊藤 4:45.094

高校生男子スプリント

- 1 Yoon Jun Young KOR
- 2 野上 竜太 岡山工業高校
- 3 Ju Gang Eun KOR

高校生男子 1km タイムトライアル

- 1 Kim Hyeon Seok KOR 1:07.904
- 2 Kim Ji Hun KOR 1:08.386
- 3 野上 竜太 岡山工業高 1:08.859

高校生男子 3km 個人パシュート

- 1 森口 寛己 和歌山北高 3:42.692
- 2 Kim Sang Pyo KOR 3:43.272
- 3 Kim Hyeon Seok KOR 3:43.621

高校生チームスプリント

- 1 大韓民国 1:05.958
- 2 日本 野上・滝本・田邊 1:08.751

男子ポイントレース (20km)

- 1 倉林 巧和 日本体育大学 54p
- 2 伊藤 和輝 早稲田大学 41p
- 3 Park Jong Hyo KOR 41p

男子ケイリン

- 1 Yoon Jun Young KOR
- 2 末木 浩二 日本大学
- 3 Son Je Yong KOR

女子スプリント

- 1 Im Sa Rang KOR
- 2 Kim Seong Yeon KOR
- 3 丸田 京 法政大学

女子 500m タイムトライアル

- 1 Kim Hyun Gee KOR 37.766
- 2 Kim Seong Yeon KOR 38.358
- 3 小島 蓉子 日本体育大 39.037

女子 2km 個人パシュート

- 1 小島 蓉子 日本体育大 2:39.250
- 2 Choi Ji Hye KOR 2:44.570
- 3 元砂七々美 榛生昇陽 2:47.346

女子スクラッチ (7.5km)

- 1 Im Sa Rang KOR
- 2 鈴木 奈央 星陵高校
- 3 元砂七々美 榛生昇陽高校

女子チームスプリント

- 1 日本 小島・鈴木 51.076
- 2 大韓民国 REL

総合成績

- 1 大韓民国 86p
- 2 日本 67p

ツール・ド・いくちじま 2013

第2回レモンアイランドレース



多々羅大橋の下を走るメイン集団

11月2日・3日、「しまなみ海道」が通る広島県生口島でツール・ド・いくちじま2013第2回レモンアイランドレースが開催された。

レース構成は第1回大会とほぼ同じだが、昨年活躍した愛三工業レーシングチームの参加はなく、Lemon Island Mixed Teamとしてオランダ・アムステルダムからLars van de VallとKoos Jeroen Kersの2名と、チャンピオンシステムチームで活動中の西園良太が特別招待された。

また新城幸也が2日間ゲストとして登場。ウォームアップライドやエキシビジョンスプリントに参加したり、サイン会も催された。

初日の2日は瀬戸田町中心街で、1周1.4kmのクリテリウム。一般参加者と走るウォームアップライドの後、クラス3が20周で行われ、久留米大学の岡崎が27ポイントを獲得して優勝した。なお、この日のクリテリウムはすべてポイントレース形式で行われた。

続いてエリートクラスが26周で行われ、圧倒的なスピードでオランダのKoosとLarsが1～2位を独占した。ちなみにKoosは65p、Larsは44p、3位の河賀は14pであった。

2日目のロードレースはシトラスパークをスタート/フィニッシュとする生口島南西部1周15kmのコース。

まず、シトラスパーク内をパレード走行後、44名の選手が正式スタート。学連シリーズチャンピオンの金井（明治大学）を先頭に西園、徳田（鹿屋体育大学）が続く。

レース序盤、宮内（愛媛県）、長南（立命館大学）、徳田、鈴木（明治大学）等の逃げが相次いだがいずれも決まらず、先頭集団は11名に絞られる。そこから中京大学の阿曾がアタック、メイン集団には遅れていた選手が数名追いつく。

その後、阿曾を追う集団は西園、徳田、野中（広島県）、若杉（シエルボ奈良）、村上（慶應義塾大学）、馬渡（鹿屋体育大学）の6名となる。しかし阿曾の逃げもつかまり、先頭集団は西園、徳田、野中の3名に、そして徳田が遅れ西園、野中の対戦となった。

雨の降りしきる8周目の海岸線で、ついに西園は野中を振り切り独走体制に入る。先頭から9分で打ち切りという条件のため、最終ラップに入れたのはわずか3名というサバイバルレースとなり、西園、野中、徳田がそれぞれ単独でフィニッシュした。



来年の開催に向けて、「ツール・ド・いくちじま!」

クリテリウムの勝者 Koos (左) と Lars



ウォームアップライド前の招待選手



エキシビションスプリント、勝者は中央の金井

【競技結果】

ツール・ド・いくちじま 2013
第2回メモリアルロードレース
(2013/11/2-3 広島・生口島)

II-1 クリテリウム (36km)

- 1 Koos Jeroen KersLemon Island 65p
- 2 Lars van de Vall Lemon Island 44p
- 3 河賀 雄大 大阪+同志社+立命館 14p
- 4 野中 竜馬 広島県選抜 10p
- 5 馬渡 伸弥 鹿屋体育大学 8p
- 6 村上 喜昭 慶應義塾大 7p

クラス3 クリテリウム (28km)

- 1 岡崎 克志 久留米大学 27p
- 2 北中 悠貴 関西大学 22p
- 3 窪 翼 中京大学 22p
- 4 下島 将輝 大阪経済大学 18p
- 5 和田 竜治 福岡工業大学 7p
- 6 日野 竜嘉 松山聖陵高校 7p

II-2 ロードレース (150km)

- 1 西園 良太 Lemon Island 4:19.08
- 2 野中 竜馬 広島県選抜 4:23.25
- 3 徳田 優 鹿屋体育大学 4:24.07



ロードレースの勝者 西園 (手前) と2位 野中

来年の主要大会予定 2013.11.8 付

 ※ TR: トラックレース、RR: ロードレース、CX: シクロクロス、MTB: マウンテンバイク、
 BMX: BMX、Trial: トライアル、Indoor: 室内自転車競技、PARA: パラサイクリング

期日	大会名	種目	場所
1月24日	JAPAN TRACK CUPS I (Class 1)	TR	静岡/伊豆ペドロローム
1月25日～26日	JAPAN TRACK CUPS II (Class 1)	TR	静岡/伊豆ペドロローム
2月1日～2日	UCI世界選手権大会-シクロクロス	CX	オランダ
2月26日～3/2日	UCI世界選手権大会-トラックレース	TR	コロンビア
3月20日～23日	全国高校選抜大会	TR/RR	北九州・山鹿
4月6日	第39回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本CSC
4月12日～13日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	Trial	愛知/新城
4月19日～20日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	未定
4月19日～20日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	未定
5月18日～25日	ツアー・オブ・ジャパン	RR	大阪～東京
5月19日	第61回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	茨城/取手競輪場
5月22日～26日	アジア選手権大会トラックレース	TR	カザフスタン
5月25日	八幡浜国際クロスカントリー	MTB	愛媛/八幡浜
5月29日～6/1日	ツール・ド・熊野	RR	和歌山
5月29日～6/1日	アジア選手権大会ロードレース	RR	カザフスタン
6月3日～8日	世界大学選手権大会	RR/MTB	ポーランド
6月27日	全日本選手権自転車競技大会-ロード・タイムトライアル	RR	岩手/八幡平
6月27日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・ロード	PARA	岩手/八幡平
6月28日～29日	全日本選手権自転車競技大会-ロードレース	RR	岩手/八幡平
7月5日～6日	全日本選手権自転車競技大会-BMX	BMX	茨城/ひたち海浜公園
7月19日～20日	全日本選手権自転車競技大会-マウンテンバイク	MTB	未定
7月22日～27日	UCI世界選手権大会-BMX	BMX	オランダ
8月5日～9日	全国高校総体	TR/RR	山梨/笛吹
8月5日～10日	UCI世界選手権大会-ジュニア・トラック	TR	大韓民国
8月16日～17日	JOCジュニアオリンピックカップ	TR	静岡/伊豆ペドロローム
8月23日	UCI室内自転車競技ワールドカップ	Indoor	大分/別府
8月24日	アジア室内自転車競技選手権大会	Indoor	大分/別府
8月24日～26日	全国都道府県対抗自転車競技大会	TR/RR	和歌山
8月28日～31日	全日本大学対抗選手権自転車競技大会	TR/RR	静岡/日本CSC
8月28日～9/1日	UCI世界選手権大会-パラサイクリング・ロード	PARA	アメリカ
9月2日～7日	UCI世界選手権大会-MTB/トライアル	MTB/Trial	ノルウェー
9月5日～7日	全日本ステージレース in いわて	RR	岩手/八幡平
9月13日～15日	ツール・ド・北海道	RR	北海道/道東
9月19日～2日	アジア競技大会	TR/RR/MTB/BMX	韓国/インチョン
9月20日～28日	UCI世界選手権大会-ロードレース	RR	スペイン
10月13日～17日	国民体育大会自転車競技	TR/RR	長崎
10月18日～19日	ジャパン・カップ	RR	栃木/宇都宮
10月26日	第10回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重/四日市
11月9日	ツール・ド・おきなわ	RR	沖縄
11月16日	伊豆国際BMX	BMX	静岡/日本CSC
11月22日～23日	全日本選手権自転車競技大会-オムニウム	TR	静岡/伊豆ペドロローム
11月22日～23日	全日本選手権自転車競技大会-マスターズ	TR	静岡/伊豆ペドロローム
11月21日～23日	UCI世界選手権大会-室内自転車競技	Indoor	チェコ
12月6日～7日	全日本選手権自転車競技大会-室内自転車競技	Indoor	未定
12月13日～14日	全日本選手権自転車競技大会-シクロクロス	CX	未定

今こそ資源の有効利用を

創業111年の歴史

原材料再生のエキスパート

24時間対応の柔軟な受入体制

110⁺
Anniversary since 1902

東港金属

<http://www.tokometal.co.jp/>

2013年ACCアジアカップタイラウンド 日本代表選手団

大会名 2013年ACCアジアカップタイラウンド

開催場所 タイ・スパンブリ

大会期間 2013年10月4日～6日

派遣期間 2013年10月2日～7日

代表選手団

監督 坂本 勉 (ナショナルコーチ)

コーチ 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)・飯島 誠 (選手強化コーチ)

メカニック 森 昭雄 (選手強化支援スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (選手強化支援スタッフ)

選手

<男子> 坂本 貴史 (JPCA・JPCU 青森)・脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)

稲毛 健太 (JPCA・JPCU 和歌山)・河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山)

一丸 尚伍 (大分・EQA U23)・原田 裕成 (岡山・鹿屋体育大学)

<女子> 中川 諒子 (JPCA・JPCU 新潟)・前田佳代乃 (京都)

2013-14 UCIトラックワールドカップ第1戦
日本代表選手団

大会名 2013-14 UCIトラックワールドカップ第1戦

開催場所 イギリス・マンチェスター

大会期間 2013年11月1日～3日

派遣期間 2013年10月28日～11月5日

代表選手団

監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)

コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)

中田 将次 (JCF 強化コーチ)

スタッフ 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)

沖 美穂 (JCF アドバイザー)

メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)

選手 中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本) ※CCT

渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島) ※CCT

河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山) ※CCT

脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)

窪木 一茂 (和歌山・和歌山県庁)

石井 寛子 (JPCA・JPCU 東京) ※CCT

前田佳代乃 (京都) ※CCT

塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学)

※CCTはシクロチャンネル東京チーム

2013-14 UCIトラックワールドカップ第2戦
日本代表選手団

大会名 2013-14 UCIトラックワールドカップ第2戦

開催場所 メキシコ・アグアスカリエンテス

大会期間 2013年12月5日～7日

派遣期間 2013年11月29日～12月10日

代表選手団

監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)

コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)

飯島 誠 (JCF 強化コーチ)

スタッフ 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)

沖 美穂 (JCF アドバイザー)

メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)

選手 中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本) ※CCT

渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島) ※CCT

河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山) ※CCT

脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)

橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学)

石井 寛子 (JPCA・JPCU 東京) ※CCT

前田佳代乃 (京都) ※CCT

上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

※CCTはシクロチャンネル東京チーム

2013年インバカーギル・クラス1イベント
日本代表選手団

大会名 2013年インバカーギル・クラス1イベント

開催場所 ニュージーランド・インバカーギル

大会期間 2013年11月16日～17日

派遣期間 2013年11月12日～19日

代表選手団

監督 飯島 誠 (JCF 強化コーチ)

コーチ 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)

選手 橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学)

倉林 巧和 (群馬・日本体育大学)

塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学)

小島 蓉子 (千葉・日本体育大学)

2013年世界室内自転車競技選手権大会
日本代表選手団

大会名 2013年世界室内自転車競技選手権大会

開催場所 スイス・Basel

大会期間 2013年11月22日～24日

派遣期間 2013年11月16日～26日

代表選手団

チーフアドバイザー 宮川 廣平 (日本室内自転車競技連盟強化委員)

コーチ 村上 裕亮 (日本室内自転車競技連盟強化コーチ)

阪本 博美 (日本室内自転車競技連盟強化コーチ)

Murke Petra (ドイツ在住 11/20～24)

Koch Mihoko (ドイツ在住 11/16～19)

選手 時倉 宗大 (神奈川・サイクルサッカー)

藤田 洋介 (東京・サイクルサッカー)

田中 勝也 (大阪・サイクルサッカー)

岡嶋 紘次 (大阪・サイクルサッカー)

佐藤 凧沙 (京都・サイクルフィギュア)

芝山 耕輔 (ドイツ滞在・サイクルフィギュア)

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

ツール・ド・北海道 2013

(2012/9/14-16 北海道・道北～道央)

個人総合成績

1	ルハトマ	BS アンカー	10:42.29
2	モエダミアン	BS アンカー	10:42.54
3	プリントジョシヤ	バジネット	10:43.20
4	ガルシアウイセンテ	マトリックス	10:43.21
5	ウイセンテ 昉	チーム右京	10:43.27
6	中根 英登	NIPPO	10:43.40

ポイント賞

1	ルハトマ	BS アンカー	37p
2	プリントジョシヤ	バジネット	36p
3	ピニョットレオナルド	NIPPO	34p

山岳賞

1	阿部 嵩之	チーム右京	20p
2	イヴァンス カル	バジネット	10p
3	福島 晋一	NIPPO	6p

チーム総合成績

1	チーム NIPPO - DE ROSA	32:10:12
2	チーム・バジネット・フォーグワ	32:12:17
3	マトリックスハワータグ	32:13:16

Stage1 (180km)

1	ピニョットレオナルド	NIPPO	4:36.27
2	ガルシアウイセンテ	マトリックス	4:36.27
3	ウイセンテ 昉	チーム右京	4:36.27
4	中根 英登	NIPPO	4:36.27
5	アンダーソン ジョン	バジネット	4:36.32
6	清水 都貴	BS アンカー	4:36.32

Stage2 (132km)

1	ルハトマ	BS アンカー	3:18.12
2	モエダミアン	BS アンカー	3:18.18
3	グラーブ アロン	コルバ	3:18.27
4	プリントジョシヤ	バジネット	3:18.35
5	阿部 嵩之	チーム右京	3:18.47
6	西村 大輝	シムルージング	3:19.16

Stage3 (116km)

1	山本 元喜	鹿屋体育大	2:46.36
2	内間 康平	NIPPO	2:46.44
3	福島 晋一	NIPPO	2:47.08
4	池部 壮太	マトリックス	2:47.11
5	プリントジョシヤ	バジネット	2:47.16
6	中根 英登	NIPPO	2:47.41

日本スプリントマスターズ 2013 北九州大会

(2013/9/14-16 福岡・北九州)

男子スプリント

1部 (35歳以上、40歳未満)

1	亀山 尊仁	神奈川 東燃ゼネラル
2	吉田 智志	広島
3	佐野 陽三	富山 KATEKYOグループ

2部 (40歳以上、45歳未満)

1	迫間 隆志	岐阜 岐阜聖徳学園高校
2	荒上 光亮	福岡 ファンサイクル
3	高梨 俊雄	静岡 キヤノン

3部 (45歳以上、50歳未満)

1	一木 辰也	大分 Cycle Shop Castello
2	市川 英昭	神奈川 富士建設
3	高橋 文仁	大分 東芝セミコンダクター

4部 (50歳以上、55歳未満)

1	越猪 澄	愛知
2	北津留 修	福岡 北九州市消防局
3	高橋 秀樹	東京 カオ

5部 (55歳以上、60歳未満)

1	門松 克己	大阪 次山商会
2	坂寄 昌弘	栃木 TOKAI
3	足立 享司	岡山 インテリア足立

6部 (60歳以上)

1	若杉 平雄	愛知 ワコー
2	羽鳥 浩	神奈川 大明建設
3	西丸 房雄	大分 ウエストロード

男子ケリ

1部 (35歳以上、40歳未満)

1	川尻 拓磨	長崎 陸自第4師団
2	重富 一邦	福岡 SGプランニング
3	平尾 貴之	岐阜 東邦テックス

2部 (40歳以上、45歳未満)

1	迫間 隆志	岐阜 岐阜聖徳学園高校
2	中村 俊二	静岡 ジヤコ
3	高梨 俊雄	静岡 キヤノン

3部 (45歳以上、50歳未満)

1	一木 辰也	大分 Cycle Shop Castello
2	笹原 康彦	岐阜 花の木歯科
3	高橋 文仁	大分 東芝セミコンダクター

4部 (50歳以上、55歳未満)

1	越猪 澄	愛知
2	姫野 雅道	大分 曲浦産業
3	濱中 康志	兵庫 ビービーロード

5部 (55歳以上、60歳未満)

1	外勢 肇	愛知 青年の家
2	山崎 清一	静岡 サイクルランドチャリコン
3	坂寄 昌弘	栃木 TOKAI

6部 (60歳以上)

1	西丸 房雄	大分 ウエストロード
2	若杉 平雄	愛知 ワコー
3	村上 友徳	福岡 よしみ工産

男子3km個人ハーフ

1部 (35歳以上、40歳未満)

1	善波 昭	東京 東商会	3:52.831
2	高橋 匡司	静岡 トヨタケニカル	3:54.763
3	中田 尚志	京都 関西ガス	3:55.006

2部 (40歳以上、45歳未満)

1	石堂 大悟	福岡	3:43.603
2	松本 貞行	京都 ニゾウウテック	3:45.177
3	山口 忠行	広島	3:48.481

3部 (45歳以上、50歳未満)

1	藤田 晃三	岩手 BS サイクル	3:43.200
2	矢野 賢児	高知 競技会	3:43.391
3	羽田野野隆彦	東京 大鵬薬品	3:51.061

4部 (50歳以上、55歳未満)

1	安東 秀倫	岡山 河合郵便局	3:51.445
2	五味 実	千葉 CS セキヤ	3:55.150
3	岡武 孝浩	岐阜 正岡工業	3:59.403

5部 (55歳以上、60歳未満)

1	浅倉 基	富山 競技会	3:55.376
2	福島 雄二	熊本 ハステックス	4:01.828

3	雄山 浩一	大分 敬和会	4:09.807
---	-------	--------	----------

6部 (60歳以上)

1	渡辺 正彦	埼玉	4:08.385
2	小田 秀明	静岡	4:10.517
3	尾崎 進久	静岡	4:18.501

男子ポイントレース (16km)

1部・2部 (35歳以上、45歳未満)

1	松本 貞行	京都 ニゾウウテック	28p
2	山田 哲治	高知 宇治電化学工業	21p
3	山口 忠行	広島	9p

3部・4部 (45歳以上、55歳未満)

1	羽田野野隆彦	東京 大鵬薬品工業	35p
2	藤田 晃三	岩手 プリヂェストンサイクル	34p
3	五味 実	千葉 サイクルショップセキヤ	16p

男子1kmタイムトライアル

1部 (35歳以上、40歳未満)

1	土谷 学	茨城 日本ホリプロ	1:13.498
2	佐野 陽三	富山 KATEKYO	1:14.254
3	松岡 亮	兵庫 松岡クリニック	1:14.502

2部 (40歳以上、45歳未満)

1	辻本 学	京都 やまと	1:12.223
2	中村 俊二	静岡 ジヤコ	1:12.421
3	荒上 光亮	福岡 ファンサイクル	1:12.579

3部 (45歳以上、50歳未満)

1	矢野 賢児	高知 競技会	1:10.245
2	笹原 康彦	岐阜 花の木歯科	1:10.378
3	古本 清文	富山 古本製作所	1:12.124

4部 (50歳以上、55歳未満)

1	高橋 秀樹	東京 カオ	1:12.455
2	安東 秀倫	岡山 河合郵便局	1:13.493
3	北津留 修	福岡 消防局	1:13.502

5部 (55歳以上、60歳未満)

1	福島 雄二	熊本 ハステックス	1:14.395
2	外勢 肇	愛知 青年の家	1:14.979
3	浅倉 基	富山 競技会	1:15.426

6部 (60歳以上)

1	伊藤 茂	広島 いたう歯科	1:18.634
2	小田 秀明	静岡	1:19.635
3	村上 幸生	大分	1:19.767

男子チームスプリント

1	伊豆 CSC	高梨・中村・山本	1:24:305
2	ステイアット-ム	北津留・重富・荒上	1:24:396
3	北陸トヨタ	古本・広瀬・佐野	1:24:604

女子スプリント

1	濱田 真子	東京
2	三井 由香	兵庫 三田市立富士中学校

女子500mタイムトライアル

1	和地 恵美	神奈川 小山中央小	40.425
2	梶 徳恵	香川	44.394
3	三井 由香	兵庫 富士中学校	44.487

女子2km個人ハーフ

1	濱田 真子	東京	2:51.336
2	和地 恵美	神奈川 小山中央小	2:51.336
3	梶 徳恵	香川	3:06.541

2013MTB J1 富士見大会

(2013/9/15 長野・富士見パノラマリゾート)

男子リトトラック

1	清水 一輝	愛知 AKI Fact.	2:56.082
2	井本はじめ	兵庫 LoveBikes	2:58.009
3	永田 隼也	神奈川 MARSH	2:59.999

女子リト タウンル

1	中川 綾子	兵庫 YRS	3:29.923
2	九島あかね	神奈川 玄武	3:39.876
3	末政 実緒	兵庫 Dirtfreak	3:45.851

第47回JBCF経産大臣旗ロードチャリオンソツッ
(2013/9/21-22 群馬・群馬CSC)

P1

1	ガルシアビセンテ	マトリックス	4:31:24
2	畑中 勇介	東京 シマルレーシング	4:31:24
3	山下 貴宏	兵庫 UKYO	4:32:00
4	ウヰス イアック マリウス	マトリックス	4:32:37
5	鈴木 真理	千葉 フリッツェン	4:32:37
6	カベッロ アントニオ	神奈川 UKYO	4:32:37

団体成績

1	マトリックスパワータグ	3800p
2	Team UKYO	3100p
3	シマルレーシング	2800p

第2回JBCFジュニアロードチャリオンソツッ

1	石上 優大	神奈川 横浜高校	1:55:19
2	内山 雅貴	静岡 ホンジャンス	1:55:19
3	小野瀬優哉	神奈川 湘南ヘルマルレ	1:55:19
4	新井 優樹	神奈川 ホンジャンス	1:55:20
5	柳沼 龍佑	福島 あぶくま	1:58:03
6	澤池 陵二	長崎 ホンジャンス	1:58:31

第2回JBCF女子ロードチャリオンソツッ

1	西 加南子	千葉 LUMINARIA	1:47:28
2	豊岡 英子	大阪 パナニックL.	1:47:28
3	智野 真央	東京 MUUR zero	1:47:28
4	金子 広美	東京 伊ノ信濃山形	1:47:28
5	針谷千紗子	栃木 Blitzschlage	1:47:28
6	ハーターソ ジル	長崎 MUUR zero	1:47:28

2013JBMXFチャリオンソツッ第5戦
(2013/9/22 広島・土師ダム)

男子リト

1	三瓶 将廣
2	松下 巽
3	吉井 康平

2013ACCトラックアジアカップタイラウンド
(2013/10/4-6 タイ・バンコク)

男子スプリント

1	NG Josiah	MAS
2	河端 朋之	JPN
3	AWANG Azizulhasni	MAS
4	坂本 貴史	JPN

男子1kmタイムトライアル

1	IM Jae Yeon	KOR	1:05.487
2	稲毛 健太	JPN	1:06.628
3	SIANGLUM Satjakul	THA	1:06.920

男子チームタイム

1	ZAKHAROV Artyom	KAZ	11p
2	LEUNG Chun Wing	HKG	25p
3	一丸 尚伍	JPN	29p
8	原田 裕成	JPN	46p

男子チームスプリント

1	IRAN
2	日本 河端・坂本・脇本
3	MALAYSIA

女子500mタイムトライアル

1	前田佳代乃	JPN	36.827
---	-------	-----	--------

2	LUEKAJORN Watinee	THA	37.730
3	MOHAMAD Ummi Hamimah	MAS	38.854

女子ケリソ

1	中川 諒子	JPN
2	LUEKAJORN Watinee	THA
3	KIM Ji Won	KOR
4	前田佳代乃	JPN

女子スプリント

1	前田佳代乃	JPN
2	中川 諒子	JPN
3	KIM Ji Won	KOR

第49回全日本学生自転車競技トラック新人戦
西日本大会
(2013/10/6 滋賀・旧大津びわこ競輪場)

男子スプリント

1	吉田 裕太	福井 大阪経済大学
2	萩原 康弘	広島 環太平洋大学
3	西川 仁	広島 朝日大学

男子1kmタイムトライアル

1	松本 貴治	愛媛 朝日大学	1:06.688
2	金田 聡士	鳥取 朝日大学	1:08.793
3	中野 雄喜	京都 朝日大学	1:10.242

男子ケリソ

1	鳥越 敬太	福岡 朝日大学
2	木下 怜也	宮城 朝日大学
3	佐々木将哉	宮城 朝日大学

男子4km個人ハーフタイム

1	相馬 義宗	岐阜 朝日大学	4:49.029
2	谷口 武史	広島 京都産大	4:56.345
3	中西 健児	京都 同志社大	5:02.342

男子ホイントレース(24km)

1	渡邊翔太郎	朝日大学	37p
2	間瀬 勇毅	京都産業大学	20p
3	原井 剣也	朝日大学	17p

女子500mタイムトライアル

1	木村 友香	京都 同志社大学	46.014
---	-------	----------	--------

女子3km個人ハーフタイム

1	宮田 菜摘	岐阜 朝日大学	4.11.586
---	-------	---------	----------

第49回全日本学生自転車競技トラック新人戦
東日本大会
(2013/10/6 福島・泉崎国際サイクルスタジアム)

男子スプリント

1	坂本 佳哉	青森 日本大学
2	栗田 万生	石川 順天堂大学
3	橋本 瑠偉	佐賀 明治大学

男子1kmタイムトライアル

1	佐伯 亮輔	鳥取 中央大学	1:07.930
2	緑川 裕也	福島 日本大学	1:08.882
3	伊藤 邦和	東京 中央大学	1:09.630

男子ケリソ

1	門脇 翼	秋田 東北学院大学
2	俵 央育	北海道 富士大学
3	藤根 俊貴	岩手 順天堂大学

男子4km個人ハーフタイム

1	吉田 優樹	福島 日本大学	4:55.445
2	吉田 悠人	栃木 日本大学	4:55.823
3	新村 穰	神奈川 法政大学	追抜勝

男子ホイントレース(24km)

1	高士 拓也	三重 中央大学
---	-------	---------

2	小林 和希	福岡 明治大学
3	佐々木真也	神奈川 日本大学

女子500mタイムトライアル

1	齋藤 望	宮城 日本体育大	39.011
2	柳本 愛奈	山梨 日本体育大	41.021
3	神庭 睦実	鳥取 順天堂大学	42.356

女子3km個人ハーフタイム

1	柳本 愛奈	山梨 日本体育大	4.10.494
2	齋藤 望	宮城 日本体育大	4.13.040

MTB J1 一里野DHI#6 XCO#5

(2013/10/12-13 石川・一里野温泉ｽﾀｰﾌﾞﾙ)

男子リト タウンル

1	九島 賛汰	神奈川 玄武	3:23.702
2	井手川直樹	広島 Devinci	3:23.927
3	清水 一輝	愛知 AKI Factory	3:25.731

女子リト タウンル

1	末政 実緒	兵庫 Dirt Freak	4:18.226
2	中村 美佳	福井 MTB Park	4:32.401
3	中川 綾子	兵庫 TeamYRS	4:35.573

男子リト クラスカトリ

1	齊藤 亮	長野 MIYATA	1:35:15.08
2	小野寺 健	北海道 Specialized	1:35:42.47
3	平野 星矢	長野 Anchor	1:38:09.77

女子リト クラスカトリ

1	小林可奈子	長野 Azumino	1:30:36.69
2	中込由香里	長野 SY-Nak	1:32:20.49
3	末政 実緒	兵庫 Dirtfreak	1:37:00.46

第9回全国ジュニア自転車競技大会
(2013/10/27 三重・四日市)

A-1 高校生男子(108.0km)

1	横山 航太	長野 篠ノ井	2:50:57.532
2	草場 啓吾	京都 北桑田	2:50:57.861
3	小山 貴大	群馬 前橋育英	2:50:59.667
4	小野瀬優哉	神奈川 西湖高	2:50:59.731
5	石上 優大	神奈川 横浜高	2:52:06.916
6	孫崎 大樹	京都 北桑田	2:52:18.510

A-2 高校生男子(54.0km)

1	小嶋 健太	石川 金沢高	1:28:16.382
2	山村 勇気	和歌山 和歌山北	1:28:17.908
3	村田 瑞季	京都 北桑田	1:28:40.523
4	今村 啓	愛知 名古屋	1:28:40.536
5	川邊 庸介	三重 暁高	1:28:40.639
6	橋爪 文太	石川 松任高	1:28:40.930

A-3 高校生女子(36.0km)

1	坂口 聖香	兵庫 播磨南	1:03:46.305
2	元砂七夕美	奈良 榛生昇陽	1:05:30.677
3	八木 梓	京都 北桑田	1:05:32.184
4	阿間見 眸	愛知 三高	1:05:32.739
5	三浦 涼香	愛知 桜花学	1:05:33.102
6	坂口 楓華	兵庫 播磨南	1:05:33.634

B-1 小学校1・2年生男子(5.0km)

1	木綿 峻介	北海道 啓西小	10:53.603
2	大蔵 悟生	長野 赤穂南小	10:57.245
3	森本真波斗	愛媛 河野小	11:23.290

B-2 小学校1・2年生女子(2.6km)

1	橋本 のこ	愛知 星の宮小	6:13.592
2	竹中 希春	京都 桃山小	6:13.696
3	大平 涼華	滋賀 葉山小	6:41.409

B-3 小学校 3・4 年生男子 (9.2km)

- 1 渡辺 耶斗 東京 練馬第二 17:46.414
 2 久田 朔 大阪 佐井寺小 18:30.733
 3 塩谷真一朗 大阪 中央小 18:46.437

B-4 小学校 3・4 年生女子 (9.2km)

- 1 下山 美晴 大阪 城南学園 20:28.061
 2 石上 琴乃 神奈川 釜利谷小 20:33.324
 3 水谷 涼花 三重 八郷小 21:20.150

B-5 小学校 5・6 年生男子 (18.2km)

- 1 江見 俊輔 東京 明正小 32:09.860
 2 高梨万里王 静岡 富士根南 33:33.349
 3 海野 晋作 東京 小宮小 33:33.618

B-6 小学校 5・6 年生女子 (9.2km)

- 1 奥居 美音 東京 港南小 18:24.505
 2 大平 捺華 滋賀 葉山小 18:29.629
 3 三宅 優奈 岡山 荘内小 20:20.667

B-7 中学生男子 (36.0km)

- 1 大町 健斗 広島 二葉中 58:14.045
 2 蠣崎 優仁 静岡 第三中 59:17.658
 3 三宅 大春 兵庫 須佐野 1:00:49.705

B-8 中学生女子 (18.0km)

- 1 寺田 早希 愛知 植田中 34:57.362
 2 松井 優佳 大阪 千里丘中 35:15.053
 3 太郎田水桜 東京 成徳大中 35:43.651

B-9 高校生男子 (36.0km)

- 1 六車 伊織 兵庫 関西学 1:00:16.328
 2 溝口 哲也 愛知 岡崎西 1:00:22.075
 3 西澤 太一 滋賀 瀬田工 1:00:55.297

B-10 高校生女子 (27.0km)

- 1 前田 乙乃 愛知 惟信高 51:04.801
 2 川嶋 百香 三重 川越高 53:27.446
 3 三宅 美峰 兵庫 鈴蘭台高 58:17.901

C-1 小学校 1・2 年生男子 (2.6km)

- 1 前田 鳳樹 熊本 宇土小 6:17.631
 2 奥井 達也 滋賀 五個荘小 6:54.703
 3 鎌田 涼雅 三重 水沢小 7:20.347

C-2 小学校 1・2 年生女子 (2.6km)

- 1 高見 桜菜 和歌山 山崎小 10:29.510
 2 ナダトモエ 三重 高野尾小 11:34.238
 3 鎌田 美羽 三重 水沢小 11:48.396

C-3 小学校 3・4 年生男子 (2.6km)

- 1 酒井 寛大 三重 朝日小 6:16.065
 2 堀口 晴吾 奈良 大宮小 7:16.016
 3 藤森 陽太 三重 泊山小 7:31.826

C-4 小学校 3・4 年生女子 (2.6km)

- 1 山路 凜佳 三重 羽津北小 8:24.977

- 2 高見 咲稀 和歌山 山崎小 8:25.283

- 3 天野 絢葉 大阪 南小 8:32.184

C-5 小学校 5・6 年生男子 (2.6km)

- 1 中西 優輔 三重 水沢小 6:28.907

- 2 長原 練 三重 水沢小 6:48.232

- 3 清水 将亮 三重 水沢小 7:01.948

M-1 未就学児 0.3km

※ 未就学児の部は順位をつけず

2013-14 UCIトラックワールドカップ 第1戦
(2013/11/1- 3 ｲﾝﾄﾞﾈｼﾞｱ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ)

男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 FORSTEMANN Robert GER
 2 PHILLIP Njisane Nicholas TRI
 3 PERKINS Shane JAY
 15 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本 (CCT)
 33 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山 (CCT)

男子ｸﾞﾘｯﾌﾟ

- 1 PERVIS François FRA
 2 LEVY Maximilian ERD
 3 CANELON Hersony VEN
 19 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島 (CCT)
 19 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

男子ﾃｰﾑｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 ドイツ 43.293
 2 ｼﾞｱ 43.844
 3 ｲﾀﾘｰ 43.972
 9 CCT 河端・中川・渡邊 44.811

男子ﾎﾞﾂﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 DE BUYST Jasper BEL 18p
 2 VELDT Tim NED 20p
 3 DAVISON Luke AUS 34p
 14 窪木 一茂 和歌山 和歌山県庁 79p

女子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 VOGEL Kristina GER
 2 LEE Wai Sze HKG
 3 JAMES Rebecca Angharad GBR
 16 前田佳代乃 京都 CCT
 25 石井 寛子 JPCA JPCU 東京 (CCT)

女子ｸﾞﾘｯﾌﾟ

- 1 VOGEL Kristina GER
 2 JAMES Rebecca Angharad GBR
 3 CLAIR Sandie FRA
 13 前田佳代乃 京都 CCT

女子ﾃｰﾑｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 ドイツ 32.788

- 2 ｲﾀﾘｰ 33.635

- 3 Max Success Pro Cycling 33.372

- 10 CCT 石井・前田 35.627

女子ﾎﾞﾂﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 TROTT Laura GBR 19p
 2 CARLETON Gillian CAN 24p
 3 BERTHON Laurie FRA 26p
 15 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大学 91p

2013 ツール・ド・インドネシア
(2013/11/2-5 イﾝﾄﾞﾈｼﾞｱ・ﾊﾞﾝﾈﾙｷﾞ)

個人総合成績

- 1 POURSEYEDIGOLAKHAIR MTPT 16:11:43
 2 KRONBORG EBSEN John DDT 16:13:03
 3 EMAMI Rahim RTS 16:13:08
 4 WANG Yin Chih CCN 16:14:13
 5 TAUFIK Muhammad BRC 16:16:15
 6 MEHRABANI AZAR Ramin RTS 16:17:32

STAGE 1 (128.7 km)

- 1 CHRISTIE Jason TSI 3:04:45
 2 SOHRABI Mehdi TPT 3:06:02
 3 GARCIA DE MATEOS RUBIO Vicente MTR 3:06:02
 4 清水 都貴 JPN 3:06:02
 5 木守 望 AIS 3:06:02
 6 GOH Choon Huat TSI 3:06:02

STAGE 2 (190 km)

- 1 POURSEYEDIGOLAKHAIR TPT 4:56:48
 2 伊藤 雅和 AIS 4:57:52
 3 KRONBORG EBSEN John DDT 4:57:57
 4 福田 真平 AIS 4:59:34
 5 GOH Choon Huat TSI 4:59:34
 6 WIESIAK Mariusz MTR 4:59:34

STAGE 3 (113.7 km)

- 1 福田 真平 AIS 2:55:00
 2 MAT AMIN Mohd Shahrul TSG 2:55:00
 3 WIESIAK Mariusz MTR 2:55:00
 4 WASESO Projo JTY 2:55:00
 5 AFRIANI Aldi CCC 2:55:00
 6 CHRISTIE Jason TSI 2:55:00

STAGE 4 (166.3 km)

- 1 EMAMI Rahim RTS 5:08:06
 2 中根 英登 JPN 5:08:14
 3 WANG Yin Chih CCN 5:09:14
 4 POURSEYEDIGOLAKHAIR M TPT 5:09:38
 5 KRONBORG EBSEN John DDT 5:09:44
 6 MEHRABANI AZAR Ramin RTS 5:12:29

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
11月22日～24日	2013年UCI室内自転車競技世界選手権大会	Indoor	スイス/バーゼル
11月24日	関西シクロクロス 野洲ラウンド/セレクションシリーズ#3	CX	滋賀/野洲 (UCI-2)
12月5日～7日	2013-2014UCIトラック・ワールドカップ・クラシックス#2	TR	メキシコ/アグアスカリエンテス
12月7日	UCIサイクルサッカーワールドカップ決勝	Indoor	チェコ/ブルン
12月8日	全日本シクロクロス選手権大会	CX	滋賀/マキノ高原
12月14日～15日	全日本室内自転車競技選手権大会	Indoor	大阪/大阪府立体育会館
1月17日～19日	2013-2014UCIトラック・ワールドカップ・クラシックス#3	TR	メキシコ/グアタハラ
1月24日	Japan Track Cup I	TR	静岡/伊豆ベロドローム
1月25日～26日	Japan Track Cup II	TR	静岡/伊豆ベロドローム
2月1日～2日	2014年UCIシクロクロス世界選手権大会	CX	オランダ/フーゲンハイド
2月26日～2日	2014年UCIトラック世界選手権大会	TR	コロンビア/カリ
3月20日～23日	平成25年度第37回全国高等学校選抜自転車競技大会	TR	福岡/北九州、熊本/山鹿

※ TR: トラックレース、RR: ロードレース、CX: シクロクロス、MTB: マウンテンバイク、BMX: BMX、Trial: トライアル、Indoor: 室内自転車競技、PARA: パラサイクリング



日本新記録

■ 女子チーム・スプリント 400m×2

女子エリート 56" 333 日本競輪学校A (小林優香、石井貴子)

2013/10/02

東京・立川

連盟の動き (9月下旬～11月中旬)

9月18日	平成25年度第3回総務委員会	於：東京・日本自転車会館3号館11階
19日	2013年UCIロード世界選日本選手団出発	於：イタリア 帰国→10/1
20日	平成25年度第6回常務理事会	於：東京・日本自転車会館3号館11階
26日	平成25年度第4回理事会	於：東京・日本自転車会館3号館4階
10月2日	2013年ACCアジアカップタイラウンド日本代表選手団出発	於：タイ 帰国→7日
10日	第6回東アジア競技大会(2013/天津)	於：中華人民共和国 帰国→16日
18日	2013年ジャパンカップ日本代表選手団派遣	於：栃木・宇都宮(～20日)
28日	2013～14UCIトラックW杯第1戦	於：イギリス 帰国→11/5
31日	2013ツール・ド・イジェン日本選手団出発	於：インドネシア 帰国→11/7
11月1日	2013日韓対抗学生自転車競技大会日本選手団出発	於：大韓民国 帰国→11/4
4日	サイクルモード2013ナショナルチーム新ジャージ発表イベント	於：千葉・幕張メッセ
11日	平成25年度第4回広報部会	於：東京・日本自転車会館3号館2階

第4回理事会(9月26日)承認事項

● 選手強化委員会 委員追加

松本 整(ナショナルチーム総監督)・坂本 勉(ナショナルコーチ)

● 平成25年度 第一級公認審判員講習会(トラック&ロード) 合格者

田中比呂喜(長野)・岡本 健(和歌山)・棟久 明博(山口)・馬場 秀朋(長崎)

JCF事務所移転について

● 再開発に伴い 平成25年12月9日(月)より下記に移転します。

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5階

最寄駅：JR 山手線 目黒駅 ※ 電話番号も変わります(未定)

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業

SAITAMA Criterium

by Le Tour de France

2013年の10月第4週、その週末にさいたま新都心で開催される自転車のイベントを控え、そのイベントを主催する関係者のうち何名かは、胃痛薬を手放せなかったに違いない。折から発生した台風27号が週末にかけて関東に接近する予報で、台風の進路によってはイベントがキャンセルになる可能性があったからだ。

そのイベントはサイクルレースを中心としていたが、通常のレースイベントとは少々趣が異なっていた。今年100回目の開催となったツール・ド・フランスを記念し、ツール・ド・フランス以外でその名称を世界で初めて冠せられたイベントである「さいたまクリテリウム by ツール・ド・フランス」の開催が、長かった準備期間を終えてこの週末に迫っていた。

しかもただ名前を冠しただけではない。レースコミセールはツール・ド・フランスを主催するA.S.O.から派遣され、先導車やコミセールバイクもフランスから空輸。レース・ディレクターは実際のツールでもその役割を務め、今大会限りでの勇退が決まっているジャン・フランソワ・ペシュ氏。さらにはツール・ド・フランス5回制覇を誇るベルナルド・イノー氏も来日するなど、まさにツール・ド・フランスそのものを日本に持ち込んだ形での開催である。

参加選手もまた豪華。今年のツール・ド・フランスの優勝者であるクリストファー・フルーム(スカイ)を筆頭に、ツール出場経験者を中心とした海外招聘選手が32名。その中には世界選手権ロードでチャンピオンになったばかりのルイ・コスタ(モビスター)も名を連ねる。マイヨ・ジョーヌとマイヨ・アルカンシェルが並び立つ姿は壮観であった。

更にはその海外招聘選手の中に新城幸也(ヨーロッパカー)、別府史之(オリカ)、増田成幸(キャノンデール)と3人の選手の名があった。今年の全日本チャンピオンである新城は、もちろん日の丸を基調としたジャージを纏っての参戦だ。

気になる台風27号は次第に東寄りに進路を変えて関東直撃の恐れがなくなり、前日の午前9時には予定通りに開催されることがアナウンスされた。

イベント開催関係者はほっと胸をなでおろしたことだろう。もしキャンセルともなれば損失などという陳腐な言葉では表せないが、そのダメージは計り知れないものとなったに違いない。

心配された台風の影響による交通の乱れも殆ど無く、降りしきる雨にも関わらず会場には多くのサイクルレースファンが集まった。レースファンにとってはジャパンカップに続く2週連続の恨みの雨であったが、幸いにもメインレースがスタートする頃には天候は回復して青空も見られ始めた。オープニングレースの第1ポイントレースは畑中勇介(シマノ)が、第2ポイントレースは中島康晴(愛三工業)がそれぞれ勝利。メインレースのクリテリウムは、ツール・ド・フランスチャンピオンのフルームが賞銀勝ちした。

残念ながら悪天候により一部のプログラムはキャンセルとなったが、今回のイベントはサイクルレースだけでなく、近接の施設で自転車や関連グッズの販売と各種体験が楽しめる「サイクルフェスタ」や、埼玉県やフランスの飲食物・特産物などが販売される「さいたまるしえ」などが併催され、コース周辺は主催者発表20万人を越す来場者で賑わっていた。サイクルレースを中心としたイベントで、これほどの規模のものは国内ではおそらく初めてであり、今回初めてサイクルレースを観戦した人も大勢いることだろう。

まずは今大会の成功を祝し、大会関係者の努力に敬意を表したい。そしてこのようなイベントを通じて、自転車競技が多くの人たちの目に触れる機会を与えて頂けたことに深く感謝したいと思う。(村田隆宣)



【競技結果】

さいたまクリテリウム by ツール・ド・フランス
(2013/10/26 埼玉・さいたま新都心)

クリテリウム (54.000km)

- | | | | |
|---|--------------|--------------|---------|
| 1 | クリストファー フルーム | スカイ® ロサイクリング | 1:17:10 |
| 2 | ピーテル サガン | キャノンデール | +07 |
| 3 | ルイ コスタ | モビスター | +07 |



- | | | | |
|---|----------|--------------|-----|
| 4 | トム フィールズ | アルコス・シマノ | +12 |
| 5 | 窪木 一茂 | マトリックス® ワータグ | +12 |
| 6 | 中島 康晴 | 愛三工業レーシング | +12 |

ポイント賞

別府 史之 オリカ・グリーンエッジ

山岳賞

ルイ コスタ モビスター

最優秀新人賞

ピーテル サガン キャノンデール

敢闘賞

別府 史之 オリカ・グリーンエッジ

ベストチーム

キャノンデール

カムフラ賞

窪木 一茂 マトリックス® ワータグ

ポイントレース1 (21.600km)

- | | | | |
|---|----------|-------------|-----|
| 1 | 畑中 勇介 | シマノレーシング | 15p |
| 2 | 別府 史之 | オリカ・グリーンエッジ | 13p |
| 3 | トム フィールズ | アルコス・シマノ | 12p |

ポイントレース2 (21.600km)

- | | | | |
|---|------------|-----------------|-----|
| 1 | 中島 康晴 | 愛三工業レーシング | 14p |
| 2 | 内間 康平 | NIPPO・テロザ | 13p |
| 3 | アルチュール ビジョ | エフデージュ ボワゾンエフエル | 13p |



ポイントレース1の最終スプリントを獲得した別府



フルームのフィニッシュ

ポイントレース2のスタート前、新城、サガン、フルーム、コスタたち





日本新記録を樹立したエキシビジョン女子チームスプリント



チームスプリント優勝の東京チーム

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.203 2013年10・11月号

発行/公益財団法人日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/安田 光義

編集事務局/公益財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

